

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和7年度期末）

1 支援の内容及び効果等

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金申請システム導入や地域からの書類の提出がスムーズに行われるようになったことは、まちづくりセンターの助言や支援によるもので評価できる。次年度以降は地域のニーズを聞き取りコンセンサスを得ながらより実情に沿った支援を期待している。 ・月1回市民相談会の取り組みは、まちづくりセンターと地域とのつながりを深める有効な手段であると言えるが、認知度が十分とは言えないため、今後はこれらの取り組みを地域のニーズと関連させることで、地域が取組みを実感できるよう期待している。 ・組織運営支援としては、総会の実施、会計処理やシステム導入に関して一定の成果が出ており評価できる。 <p>なお、支援について地域からは、担い手確保や町会加入促進、事業活動への支援が期待されているので、そのことを踏まえた支援を期待している。</p>

2 支援の内容及び効果等

評価項目

- (1) 自由提案による地域支援の支援状況（実績）及び効果等
- (2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制
- (2-2) フォロー(バックアップ)体制等
- (3) 区のマネジメントに対応した取り組み

評価	左記の理由
A	<p>今年度、地域で行われている会議への参加や会計支援により、事業内容の見直しや振り返りが出来たことは評価できる。</p> <p>また、支援体制においては、理事会への出席や各地域の事業にも積極的に参加しており、フォロー体制についても社内研修や会議により支援員間の情報共有がなされている。</p> <p>今年度は関係づくりに重点を置き、地域に寄り添った支援を実施してきたことで認知度の向上が見られた。</p> <p>次年度以降も、積極的に地域に出向き、ファシリテート能力などまちづくりの専門的知識を発揮していただき、まちづくり協議会の課題抽出や事例提案などが今まで以上積極的に行われることで、まちづくりセンターが「頼れる存在」となることを期待している。</p>

3 支援の内容及び効果等

評価項目

(1) 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取り組み）

評価	左記の理由
B	<p>重点支援である会計支援に関しては、今年度後半の令和8年度予算や令和7年度決算といった具体的な事務作業支援が出てきたことにより、今までより一層直接まちづくりセンターに地域からの問い合わせ等が行われるようになってきたことは、徐々にまちづくりセンターの存在が浸透してきていることの現れといえる。地域の各種団体に対して行ったアンケート調査においても、まちづくりセンターの支援に満足している割合は（84.9%）と前年度（81.0%）を上回り、自分の地域に即した支援を受けることが出来ていると感じた割合（89.5%）は前年度（89.2%）を上回る結果となった。</p> <p>次年度以降の支援にあたっては、各まちづくり協議会の総合的な運営にも積極的な支援を期待しており、会計に偏った支援にならないように注意していただきたい。</p>

4 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	<p>今年度からまちづくりセンターの支援内容が変わったことから、地域との関係構築が重要であった。その結果、支援の満足度において、前年度の数値を上回ることができたことは評価できる。</p> <p>しかしながら、その支援が地域のニーズに即したものであるかという点においては、まだ十分とは言えない結果であった。</p> <p>まちづくり協議会の支援では、地域との関係構築が重要であり、さらに信頼を得るためにも積極的な働きかけを実践していくことが重要であると考えます。</p> <p>地域が支援を実感できるようこれからも地域に自発的に出向き、コンセンサスを得ながら民主的な組織運営や会計の透明性確保に向けて、積極的な提案が行えるよう期待している。</p>

(評価基準)

- S：支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：支援内容や目標の水準を下回っている。